静岡図書館交の会報

第１６号：２０１６年９月

（目次）

・としょかんについて思う　Ｐ１
・韓国の「小さな図書館」　Ｐ２
・第 20 回静岡県図書館交流会報告　Ｐ３
・「妖怪の世界にようこそ」　Ｐ４
・図書館と私　Ｐ５
・図書館からこんにちは
　市内図書館ニュース　Ｐ６
・リレーエッセイ・「ほっとコーナー」　Ｐ７
・これからの事業日程ほか　Ｐ８

としょかんについて思う

静岡女性史研究会　　尾崎　朝子

夏休みに入り、娘が孫を連れて浜松市から里帰りをした。娘親子は、連日、プールや映画や水辺の学校などに行き故郷での夏を楽しんでいた。

ある日、私も一緒に家の近くの図書館に行った。若い母だった頃、住民運動に関わってできた図書館だ。冷房の利いた図書館内で思い思いの本に触れたあと、それぞれが選んだ本を８冊借りた。その帰り、娘は言った。

「浜松市の図書館は多くが民間委託になったのよ。静岡市はどう？」

浜松市は、図書館については静岡市よりも先進的だと思っていたが、指定管理者制度を導入したことを娘に知らされて驚いた。

私は以前、図書館協議会の委員であった頃のことを思い出した。もう１０年も前のことだ。「民でできることは民に」の小泉首相のもと、地方自治法が改正され全国の図書館で民営化が進んでいた。私が委員になったのは、静岡市の図書館にも指定管理者制度導入問題が持ち上がっている頃であった。

当時静岡市立図書館は、それまでの市民運動などが実を結び、図書館も増え政令都市 14 市の人口当たり個人貸し出し点数はさいたま市についで 2 位であることに表われているように、効率的なサービスを実施していた。

私は、日頃申し訳ないほど図書館の恩恵を享受していたから、委員になったからには図書館を利用している一市民としてものを申していこうと思っていた。だが、いざ委員になってみると、図書館づくり運動をしている時にも感じていたが、図書館問題というのは何と奥が深くて難しいことか。

私が協議会委員を拝命した翌年の 2006 年 2 月。なんと、指定管理者制度を「西奈図書館で 2007 年度から 2 年間施行し、そのあと 5 年間かけて他の地域館に導入する」と、当局から公式に発表されたのだった。

図書館が民間委託になったら一体どうなるのだろう。儲けのない図書館が利潤の対象になるのか、個人情報は公務員の秘守義務により守られているのに、それはどうなるのか。誰にも公正で公平なサービスを今までのように受けることができるのだろうか等々、心配なことが山ほどあった。

私は、制度導入を絶対避け、先輩たちがここまでに発展させてきた静岡の図書館を護らなくてはいけないという思いで一杯であった。

普通、協議会の会議時間は午前 10 時から始まって 12 時までのほぼ２時間位である。それが、臨時の図書館協議会が開催され、傍聴者やマスコミ関係者が同席する中、午前 10 時から午後３時までという会を何度も重ねた。この間の熱い論議は継続審議となり、答申書が提出され、指定管理者制度導入の凍結に繋がった。その後、委員も交代し、館長も市長も変わって現在直営方式を継続している。

今の浜松市立図書館の民間委託の状況を知るにつけ、基本を大切にした静岡市の選択は正解だったと感謝している。

私たち市民は、ただ図書館から恩恵を受けるだけでなく、正規職員の増員や非正規職員の待遇改善等を図り、図書館職員が働きやすい職場になるような支援もしていかなくてはいけないのではと、自戒を込めて思うこの頃である。

尾崎朝子さん

韓国の「小さな図書館」

静岡図書館友の会・運営委員　草谷桂子

★はじめに

この春、親子読書地域文庫全国連絡会の推薦で韓国政府文化体育観光部主催の「小さな図書館」全国大会で事例発表をさせていただいた。韓国語に翻訳した文章（Ａ４・１５頁）を前もって冊子にしてあったのでパワーポイントを使っての時間調節だけ気を付けての気楽な発表だった。

会場の韓国の新しい都市の世宗コンベンションセンターには８００名の参加があったとのこと。日本の図書館大会のようにロビーに出版社や家具屋さんがお店を出し熱気にあふれていた。式の前にファンファーレが鳴り、起立して国家斉唱、政府高官のご挨拶、関係者の表彰式という和やかな中にも厳かな雰囲気。

わたしの発表の前に韓国の漢城大学名誉教授イ・ヨンナム氏の「小さな図書館の展開過程と意味、その方向」の講演があった。翻訳いただいた文によると「小さな図書館」が生まれた背景と現状。今後は「量より質の時代に」「公共図書館の発展につなげる政府の明確な政策が必要」という論点での問題提起だった。同じことを考えていた私としては大変話しやすかった。

私は主宰している家庭文庫の成り立ちや思い、活動内容、限界、更にそこから発展した図書館支援活動について報告した。果たしてどう伝わったかは不安だったが、講演後の皆さんの笑顔から「どの子にもより良い読書環境を！」という共通の願いは確認し合えたのではないかと思う。

★「小さな図書館」とは？

韓国特有の呼び名である「小さな図書館」について担当職員は下記のように教えて下さった。

「韓国の小さな図書館は、公共図書館の一種として『図書館法』によって次のように定義されている。生活圏域で知識情報および読書文化サービスの提供を主な目的とする図書館として、公立公共図書館の施設および図書館資料基準に達していない小さな図書館。その最小基準は、建物の面積は 33㎡以上、閲覧席 6 席以上、図書館資料 1 千冊以上」

「小さな図書館」のありようも様々なので、公的援助を得るのには、ある一定の基準（広さ・本の数・開館日数など）が必要ということだ。

前もって調べていた「小さな図書館」について、特に印象的だったのがその命名であった。例えば図書館は「素足の仲間」「夢の光」「桃の花咲くころ」「童話汽車」「垣根の低い」「けやきの木」など特徴を名前に冠していて、どんな図書館か想像するだけでも楽しかった。

実際に２つの「小さな図書館」をご案内いただいたが、どちらも家庭的な雰囲気を漂わせ、温かく迎えて下さった。

韓国に５０００以上あるという「小さな図書館」だが、政府の担当者は「千差万別。倉庫になっているところも多い。公的補助を受ける基準もあるのでまだ発展途上であり、公共図書館の発展につなげていくことが望ましいと考えている」と率直に語ってくださった。また「友の会や図書館の発展を願う会がたくさんある日本が、行政の人間としてうらやましい」とも一。

発表風景

交流風景

第20回静岡県図書館交流会報告

静岡県立中央図書館主査　　安田　宏美

今年の交流会は、県内から３つの活動報告と講演会がありました。

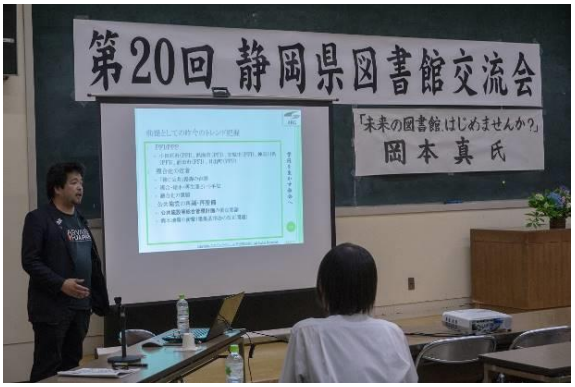
◆掛川市の奥野館長からは、庁内他部署との連携企画や夜間に朗読会や演奏会を行うイベント「夜の図書館」などが紹介され、様々なアプローチで市民に親しまれる図書館づくりをされている様子が窺えました。現在、掛川市では「第４期掛川市行政改革審議会」が行われ、図書館の在り方も議論されていますが、今の取組みがさらに充実し、市民にとってより良い図書館となるよう期待されるところです。

◆ＪＲ身延線沿いにあり「電車が見える図書館」を売りにしているという富士宮市立芝川図書館からは、司書の高瀬一樹さんが報告してくださいました。身延線の駅名票を模したプレートの掲示や「電車おみくじ」の配布、ジオラマの展示など楽しい様子が伝わる内容でした。また、２階の児童コーナーは気兼ねなく過ごせると評判で、子育て世代の情報交換の場にもなっているそうです。最後に、予約多数本や人気作家の新刊紹介を館内掲示することについて、「それだけでは誰が来ても同じ方向の興味しか育たないのでは？」と問題提起され、多種多様な資料がある図書館ならでは・芝川ならではの価値に触れてもらえるようにしたい、とのことでした。

◆藤枝・図書館友の会の南雲代表からは、10年以上に及ぶ活動の軌跡をお伺いしました。当時、人口 13 万人に対し図書館１館のみという状況の中、新館建設を目指して市長宛の要望書の提出や他館見学会、広報など様々な活動を展開されたとのことでした。さらには、新館建設を求める２万４千余の請願署名を集め、これが大きな後押しとなり 2009 年に新館がオープンしました。現在も様々なイベントの実施や、市長らとの懇談会を行うなど、図書館の応援団として引き続き活発に活動されています。

◆最後は、アカデミック・リソース・ガイドの岡本真さんに「未来の図書館、はじめませんか？　−まだ図書館がすべきことを探して」と題した講演会をしていただきました。図書館を２階建てに例え、１階部分は経済格差を感じることなく情報や知識へアクセスできる図書館の本来的な「根本機能」、２階部分はまちのにぎわいや人の繋がりを生むような機能を充実させる「発展機能」を持たせ、図書館も税金を投入している以上は１階部分だけでなく、２階部分も充実させていかなくてはならない、とのことでした。また、自分たちのまちの図書館をより良くするには、よその町の図書館もたくさん知り「図書館リテラシー」を身につけ、当事者意識を持って関わることを提案されました。この他、人口が減少し、自治体が全ての公共事業を賄うことは難しくなっている中、図書館無料の原則を大前提にしながらも一部有料により一定の財源化を測ることの可能性についてのお話しもありました。

◆１つ１つが聞き応えのある発表で、終了後、講師に熱心に質問される参加者もいらっしゃいました。



講演風景（岡本真講師）

※2016.6.4（土）、静岡県立中央図書館にて実施。参加者 36 人。

（絵・松田シヅコ）

「妖怪の世界にようこそ」

妖怪チームリーダー・『はやたろう』著者　堀切りエ

近ごろ、子どもにも大人にも人気の妖怪たち。人によって、世代によって妖怪との出会いは異なるようです。おじいちゃん、おばあちゃんに話を聞いた、近くに妖怪の出るという場所がある、本やマンガで読んだ、アニメで観た、ゲームでつかまえた？

「そもそも妖怪ってなんだろう？」と、考えたことはありますか？　ちょっと思い浮かべてみただけでも、妖怪には不思議がたくさんありそうです。

「妖怪っていつからいるの？」「なぜカッパはキュウリがすきなの？」「なぜオニは豆がきらいなの？」「テングの鼻はなぜ高い？」「妖怪の種類ってどれくらい？」などなど。

『おもしろ妖怪学１００夜』では、そんな妖怪にまつわる疑問を１００とりあげて、わかりやすく答えています。

「妖怪学」なんて学問があるの？　ともお思いでしょうが、妖怪は各地域の風土・文化・生活から生まれた伝承と結びついていますから、「民俗学」に近いといってよいでしょう。子どもなら「郷土学習」と結びつくと思います。

静岡県にしか記録の残っていない妖怪もいます。その名は「ナミコゾウ」。どうもカッパの仲間のようですが、この妖怪はかわいくて人間に親切なめずらしい妖怪なのです。ほかにも静岡にはたくさん妖怪がいます。というより、記録が残っているのです。それは静岡県女子師範学校郷土史研究会が昔話の創世記に学生たちの聞き取りを整理して本として残したからです。

このように静岡という場所は、妖怪学にとって魅力のある地域でもあるのです。ぜひ皆様には、地元の妖怪を再発見していただきたいと思います。

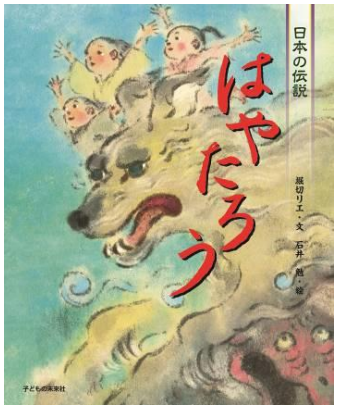
私は「子どもの未来社」から『日本の伝説　はやたろう』という絵本も出版しましたが、この本も妖怪と静岡と関係があります。絵本の取材は、磐田市の見付天神矢奈比賣神社から始まりました。神社に巣くうヒヒの妖怪を、霊犬「早太郎（悉平太郎）」が退治するという物語です。磐田市で人気のゆるキャラ「しっぺい」のルーツの伝説でもあります。

そしてこの伝説は、今昔物語の「猿神退治」が原型とも言われています。「猿の神？　妖怪ではなくて？」と疑問がわきますね。「そもそも妖怪と神の関係は？」……

「妖怪は零落した神である」と柳田国男は書きました。そういえば、オニも鬼神として扱われたりしますね。

妖怪は知れば知るほど、不思議がたくさんあり、まるで妖怪沼にずぶずぶとはまったように出られなくなってしまうのです。

そんなふうに妖怪にはまってしまった「妖怪チーム」の面々が、１０月３０日の「しずとしょフェスタ」に伺います。妖怪の魅力や不思議について語り、妖怪クイズや妖怪話もまじえて、妖怪のおもしろさ、奥深さを皆さんと共有できればと思います。ぜひ、妖怪学入門の扉をたたきにいらしてください。皆さんとお会いするのを楽しみにしています。



『はやたろう』表紙

ひひの妖怪

（絵・石井勉）

図　書　館　と　私

元静岡市図書館協議会委員　日野　信子

私が初めて図書館と関わったのは、小学校の２年生の時に友達とふざけていてガラスを割ってしまったのが始まりです。教室よりももっと大変な場所……という認識でした。その後図書委員になったのですから皮肉なものです。ただ放課後に本の整理をしたり、先生のお手伝いをすることがとても楽しかったことを覚えています。

昭和 62 年に蒲原町の社会教育委員となり、それまで文化センターの中にあった図書室を図書館として独立させるプロジェクトに携わることになったのです。山梨の図書館を視察したときに館長さんの熱意がほとばしっていて、こんな意気込みで蒲原の図書館を作っていくことができたら素晴らしいことだと感じました。書棚の配置、カウンターのありかた等々いろいろな図書館を参考にさせて頂きながら蒲原の図書館の設計図を作り上げていきました。そのときのリーダーのかたが、「図書館というのは収集だけではなく発信する場であるべき」とおっしゃって時代のニーズをいかに感知するかが重要だということを教えてくださいました。そして、それは本だけでなくデジタルメディアの分野も取り込むということでした。その時の私としては正直「え一図書館に」と言う心境でしたが、今思うと間違いではなかったのだと確信しています。その続きとなるのでしょうか、２階にピアノを置きました。「本に囲まれた音楽会」と称して年に２回ほど図書館が終わってから演奏会を開きました。みなさんにとって多分初めての試みだったと思います。参加してくださった方たちはとても喜んでくださり、私たちは音楽が図書館を知るきっかけになった方もあったのではないかと思っています。それほど蒲原の図書館の素晴らしさをたくさんの方々に知ってほしいと願いました。その時の私の心境はいろいろな意味で、自分が携わったからだけではなく蒲原の図書館ほど素晴らしい図書館はないという気持ちでした。

時は流れ蒲原町は静岡市と合併し蒲原町図書館は静岡市の図書館の一つとなりました。

なぜか静岡市図書館協議会のメンバーに任命され、最初に飛び込んできたのが図書館の指定管理者問題でした。図書館をないがしろにしているのではないか、知的財産をバカにしているのではないか……私なりに真剣に考えました。この時ほど図書館を大切に考えている方たちといろいろなお話ができたことは、私の人生の中で最大の宝物だと心から感じています。私は途中で退任しましたが、図書館協議会のみなさまのお力で静岡市の図書館が直営になったのだと心底感謝の気持ちでいっぱいです。

最近になって、小学３年生の孫が図書館で本を借りて読むのが楽しみだと話してくれました。私にとってこの上ない喜びです。

私と図書館はいつまでもつながっているのだと実感しています。

図書館から　こんにちは

「初めての経験の連続」

中央図書館・主事　　利國　陽二郎

今年度採用されたばかりで司書資格もなく、図書館の仕事に当初やっていけるのか不安な私でしたが、先輩職員や周囲の人に助けられて、現在は一通りのことはこなせるようになりました。しかし、まだまだ勉強させて頂くことが多いです。

こんな私ですが、図書館では主に移動図書館の仕事を担当しています。移動図書館【ぶっくる】は昭和 54 年 9 月から開館を始めて、現在は市内 18 カ所のステーションを巡回しています。利用者は年代様々ですが、中には移動図書館が来るのを楽しみにされてる方が多くいらっしゃいます。

移動図書館での業務はぶっくるにおいてない本は利用者にリクエスト用紙に記入してもらい、帰館してから用意できるかできないかを回答したり団体貸出し等があります。もし、移動図書館の巡回を見かけましたら是非お立ち寄りください。職員一同お待ちしております。

また 7 月～8 月の移動図書館休館中には遠隔山間地域（井川、梅ヶ島、玉川、清沢、大河内、大川）で 1 日こかげ文庫の図書館事業をやっており、今年度に大川、梅ヶ島、井川の 3 か所で 1 日こかげ文庫をやりました。1 日こかげ文庫では本の貸出、お話し会、工作、レクリエーション等を行っております。

1 日こかげ文庫をやるのは、初めてで対象の多くが児童でしたのでうまく出来るか心配でしたが、他の職員さんがフォローして下さり子ども達に本の楽しさ等を教えることが出来たと思います。子ども達が終了までずっと笑顔で楽しんでくれとても嬉しかったです。また終了後のくじ引きも大変好評でした。

この経験は、私が今後図書館職員としてやっていくにあたって大きな経験であり、初心を忘れずに頑張っていきたいと思います。

市内図書館ニュース

「教育支援コーナー」をご活用ください

静岡市立北部図書館

教育センターと併設している環境を活かして、今年６月より北部図書館の「知識コーナー」の一角に「教育支援コーナー」を新設しました。

現役の教職員からの購入要望リストに基づいて購入した資料をはじめ、保護者父兄にも役立つ視点で選書した教育関係の資料を収集・配架しています。

「算数って、どうやって子どもに教えたら分かるのかしら？」という場合には『「算数の教え方」がわかる本』（379.9ｻ）を読んでから子どもさんに説明すれば、より分かりやすくなることでしょう。

また、「体育の逆上がりや、マット運動が上手になるにはどう教えればいいんだろう？」という場合には『運動がみるみる得意になる体育の本』(375.492ｳ)をどうぞ。現役の先生方の図書資料環境支援も目的にしたコーナーですので、「こんな本もあればいいな」という場合は、ぜひ最寄の館へ「リクエストカード」をお出しください。

皆さまのご活用をお待ちしております。

教育支援コーナー

会員リレーエッセイ

お話会雑感

静岡おはなしの会会員　小泉 亮子

「静岡おはなしの会」では、中央図書館で土曜日の午後にお話し会を30余年にわたり開いている。

毎月の例会で、当番を決めお話し会のプログラムを立て、子どもにより良い本を手渡すため疑問に感じる部分は読んで全員で検討する。図書館で例会を開いているので欲しいと思った本が手元にあって助かる。苦労してプログラムを立てても、参加する子どもの年齢によって本を差し替えることが度々ある。以前より幼い子どもの参加が多く、高学年の子どもは少なくなった。

そんな中で印象深い女の子を紹介する。その子は幼稚園の4歳児の時、北海道から父親の転勤で静岡に来て、すぐに図書館のお話し会に母親と参加した。母親はよその子どもと手をつなげなかった。親子をさりげなく見ていると、次回からは子ども一人で参加し母親は階下で本を読んで、お話し会が終わるのを待っていた。

この子はお話し会が大好きで、欠かさず参加し、たまたま同じ話になると「もう聞いた！」と大声で叫びお話しのあらましを隣の子に話してしまうので、語り手の私たちはうかうかできなかった。常連さんの上級生に「静かにして」と注意されたりしているうちに1年生になり深くお話しを聞けるようになった。そして、終わってからお話や絵本の感想を、熱心に話していく。この時間を楽しみにしているようであった。この子が大人に自分の考えを聞いて欲しいと願っていることが痛いように分かった。

この子は父親の転勤で東京に行ってしまったが、私は、お話を語ることを通して子供の話を正面から聞ける年寄りになりたいと考えている。

～ しずとも「ほっとコーナー」 ～

― やなぎ文庫にどうぞ！ ―

やなぎ文庫主宰・静岡県子ども読書アドバイザー　三浦　康子

やなぎ文庫はJR菊川駅から徒歩7分の自宅で月 2 回開いています。「絵本を軸に子育てを楽しむ」をテーマに、親子のふれあいの場、地域の交流の場になればと活動しています。ここ数年は乳幼児を持つ親子での参加が多くなりました。

参加者の声は、「個人宅だから子どもも親もお友達の家に来てるみたい」「四季の行事が楽しめる」「児童館デビュー前のお試しにちょうどいい」と様々です。障がいを持つ子どものお母さんは「菊川に引っ越してきて初めて個人宅を訪問した」と話してくれました。

外国人の(中国、タイ、フィリピン)親子の参加もあり、それぞれの母国語での絵本読み聞かせ会も好評でした。スタッフは30代から70代と幅広く、音楽係、おやつ係、科学遊び係、掃除係、おしゃべり係など得意とすることを担当しています。

ぜひ遊びに来てください。お待ちしています。

※ 定例会･･･月2回　第1第3　木曜日　午後3時より

やなぎ文庫（菊川市柳 1 - 40－2　TEL0537－36 - 4991 やなぎ1丁目公園前　三浦宅）

菊川市 1%地域づくり活動交付金を受けています。

第28回静岡県地域文化活動奨励賞受賞

実施事業・これからの事業日程

■ 第 20 回静岡県図書館交流会　：　実行委員会と共催

6 月 4 日（土）、静岡県立中央図書館にて「第 20 回静岡県図書館交流会」を開催しました。
※ 詳細は会報（第 16 号）Ｐ３の関連記事をご覧下さい。

■ 「本とつながる、人とつながる」講演会　：　市立御幸町図書館と共催

8 月 19 日（金）夜、ペガザート 7 階のＢ・ｎｅｓｔ（ビネスト・静岡市産学交流センター）において、立場の異なる３者から「本」と「本のある風景」について語っていただき、その後、質問に答える形で３者によるトークライブを行いました。マチナカ・夏の夜のひとときということもあってか、60 人もの聴衆で満員の盛況となりました。３者三様の切り口から本に対する思いを熱く語っていただき、アンケート結果からも、参加者が満足された様子が伝わってきました。

講演風景

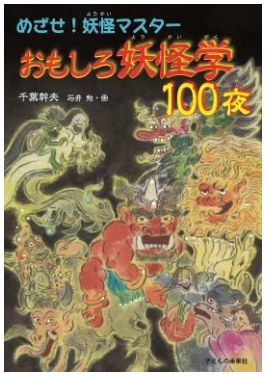
出演者　市原健太 さん：　静岡市葵区鷹匠にある古本屋「水曜文庫」の店長
川村美智 さん：　静岡市女性会館（アイセル 21 ）館長　・元静岡新聞 記者
宮本博之 さん：　静岡市立中央図書館　副館長

■ 2016 しずとしょフェスタ：「妖怪としょかん」

…静岡版ハロウィーンを楽しもう…
10 月 30 日（日）は中央図書館へ集まれ！

10 月 30 日（日）、子どもの未来社の妖怪絵本を手がける、妖怪大好きチームが中央図書館にやってきます。妖怪に関するイベントを多数開催しますので１日中､妖怪を楽しむことができます。

２階の展示コーナーでは、事前に「妖怪原画展」「妖怪人気投票」を行います。*大人も子供もどうぞいらっしゃいませ！*



『おもしろ妖怪学』カバー

※ 詳しくは､｢しずとしょフェスタ｣チラシをご覧ください。
※ 会報（第 16 号）Ｐ４に関連記事があります。
※ 静岡市立図書館ホームページにお知らせ（記事）が掲載されています。

■ 2017 年度第９回静岡図書館友の会総会・講演会

高橋源一郎氏は､明治学院大学教授で小説家､文学者､文芸評論家として幅広い活動をしており､日本のポストモダン文学を代表する作家の一人として知られています。
※ 皆様の来場をお待ちしています。

○ 講師：高橋源一郎氏　　○ 演題：未定
○ 会場：静岡県総合研修所もくせい会館　　○ 日時：2017 年 2 月 26 日（日）午後

静岡図書館友の会会報　No.16　2016.9
静岡図書館友の会　代表　田中　文雄
連絡先：（総務携帯）080-6910-9434
E ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：sizutomo2008@yahoo.co.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：http://www4.tokai.or.jp/sizu.tomo/
（会員数）240 人：2015 年 12 月現在
（表紙イラストデザイン：J.T）

編集後記

・「May I help you ?　何かお手伝いしましょうか？」この一声を自然に掛け合う私たち、社会へ育ち合いたいです。(J.T)
・この夏は暑かった！熱かった！　リオのアスリートから学んだ事。地道な精進、まわりへの感謝、精神力。私達の活動にも通じそうだ。(K.K)
・リオ五輪から連日のように感動をもらった半面、編集作業が何度も中断したこの８月､寄稿者の方々にはご迷惑をおかけしました。(T.Y)